

1 スクール・ミッション

「自主」「創造」「探求」「開拓」「貢献」を教育目標として掲げ、なりたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓く教育を推進します。広大な校地を活用して生命の大切さを指導するとともに、海外の高校生等との交流を通じて国際感覚を身に付け、将来、自信をもって社会で活躍できる人材を育成します。

2 教育目標

総合学科高等学校の特色を活かし学校創設の理念を尊重するとともに、令和5年度「学校評価」に基づき、次の教育目標を設定する。

- 自主・・・自ら学び考え、行動する人間を育てる。
- 創造・・・個性と創造力豊かな人間を育てる。
- 探求・・・自己の在り方生き方を探求する人間を育てる。
- 開拓・・・自らの人生を開拓する人間を育てる。
- 貢献・・・産業社会や地域に貢献する人間を育てる。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ①3年間の教育活動をととして、総合学科としての理念を具現化するために、グランドデザインに示した育成すべき10項目の力を重視した意図的・計画的なキャリア教育を創出する。
- ②公共の場でのマナー・ルール、TP0を踏まえた身なり、所作、相手の立場に配慮したコミュニケーションができるなど、自律し、主体性をもった生徒を育成する。
- ③養護教諭、特別支援コーディネーター、カウンセラー、精神科医との連携の下、教職員が生徒理解に努め、心と身体の健康づくりを推進する。
- ④地域自治体、各種団体等との連携を図り、イベントへの参加、公開講座の実施等の社会貢献活動、奉仕体験活動、ボランティア活動を推進し、協働力を身に付ける。
- ⑤訪日外国人高校生の受け入れ、姉妹校であるドイツ・カントギムナジウム校との相互交流、さらに海外修学旅行の実施等、生徒が直接外国人と触れ合う機会を作ることにより、日本の伝統文化への理解を深め、外国の文化を理解しようとする態度を育成し、表現力、応用力、探求心を身に付ける。
- ⑥通級指導などを通じ特別支援教育の推進・充実を図るとともに「コミュニケーション」「感情のコントロール」「自己理解」などが苦手な生徒に対し、その実態に応じた指導を行い、一人一人の学習上・生活上の困難を改善・克服をさせ、将来の社会自立や社会参加を目指す。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ①全ての教科において、主体的・対話的で深い学びをととして生徒の思考力、判断力、表現力を培い、実現力を身に付ける。開拓精神をもって自ら考える生徒を育成する。また、電子端末を活用するなど家庭学習を習慣化することにより、探究力を身に付け、生徒の確かな学力の定着を図る。
- ②農業必修科目を学び、自然や環境に触れ体験することにより、食・農・環境についての理解を深めさせる。また、家政系科目の体験的な学習により、食育、保育、看護、介護、福祉について考えさせる。部活動の充実・活性化を図ることにより、生活習慣の確立と学習の仕方や学習に取り組む姿勢を徹底し、学習との両立を定着させる。また、部活動、特別活動等をととして、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立を図り、社会性や帰属意識、安心感を育てる。

(3) アドミッション・ポリシー

本校の教育理念に共感し、学びたいという強い思いをもち、以下に示すような生徒の入学を期待している。

- ①本校での様々な学習や体験を活かし、大学進学をはじめとする多様な進路実現に向けて真摯に取り組む生徒。
- ②得意としてきた教科があり、それを伸ばす意思をもつとともに、幅広い分野の学習にも意欲的に取り組む生徒。
- ③中学校での諸活動や地域社会等の活動に積極的に参加した経験があり、入学後も様々なことに積極的に取り組む生徒。

4 指導の重点

(1) 各教科・科目の指導

- ①★総合学科の特色を活かしながら言語活動を充実させ、「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間（卒業研究）」への系統的なキャリア教育を実施することにより、自らの在り方生き方を考えさせる。
- ② 1・2年次の系列・科目選択では、生徒が自らの将来を考えた主体的な選択ができるよう履修指導体制をさらに充実する。
- ③国語、数学、英語、理科、地歴・公民の5教科について、他校の指導教諭の授業参観や学力向上セミナーへの参加をさらに促進し、還元研修を実施する。3年間の系統的な学力到達目標を設定し実施する。少人数授業・習熟度別授業やオンライン学習をとおり学力スタンダードを徹底し、読書活動の推進とJ E T及びA L Tによる英語コミュニケーション能力向上等言語活動の充実、生徒それぞれの学習意欲に応じた学習体制を整備し、学力向上を図る。
- ④★主体的・対話的で深い学びを実践し、全教科で研究授業及び相互授業参観を実施する。
- ⑤生徒の豊かな人間性や社会性の育成を図るために、青梅市をはじめとする地域との連絡・連携を密にし、小・中学校との連携を推進する。
- ⑥体力テストを活用し、保健体育・体育及び選択科目の指導において、年間をとおして生徒の体力向上を図る。
- ⑦1日6時間50分授業、土曜授業の実施により授業日数の増加を図るとともに、学校行事との調整を図り、授業時間数を最大限に確保する。
- ⑧「人間と社会」は、各市の福祉協議会と連携し、1年次で授業時間外にポイントリザーブ制で実施し、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を育成する。
- ⑨主権者教育の推進については、模擬選挙など公民権行使の権利を体感させ、市民と政治との関わりを、2年次公民科必修科目・現代社会にて実施する。
- ⑩個々の生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握し、生徒の特性に応じた自立活動を実施する。

(2) 特別活動の指導

- ①学習指導要領に則り、ホームルーム活動の内容を充実し、望ましい人間関係の育成をとおり、総合学科高校で学ぶ喜びと充実感を体感させる。
- ②グアムへの海外修学旅行、ドイツボッパルト市の姉妹校カントキムナジム校との相互交流等の国際交流をとおり、国際理解教育を推進する。
- ③生徒会活動等に適切な指導・援助を行い、生徒の自律的意識醸成に向け、生徒のための生活指導を実現する。全生徒に地域貢献・国際交流ができるようなボランティア活動や奉仕体験活動等を推進する。
- ④運動系部活動を、特別推薦枠の活用、外部指導員の積極的活用、自律経営予算の傾斜充当等の支援を実施、部活動加入率を向上させ、学校への帰属意識の向上を図る。
- ⑤オリンピック・パラリンピック「学校2020レガシー」を継続し、姉妹校交流や海外修学旅行を核にして豊かな国際感覚を身に付けさせる。また、授業や部活動を中心に地域貢献活動等に参加をし、ボランティアマインドを育成する。

(3) 生活指導

- ①日常の校内巡回や校門指導による積極的な声かけを重視するとともに、集会における身だしなみ指導、年2回の身嗜み強化週間、考查中のチェック等を実行するなか、生活指導部が対応の統一性を検証し、改善を主導して、全教職員の共通認識の下、足並みを揃えて指導にあたる。
- ②薬物乱用防止教室、セーフティ教室、防災教育、道徳教育の充実をとおり生命と人権を尊重する心を育成し、安全教育プログラムを活用、健康安全教育の充実を図る。
- ③自殺対策に資する教育を推進し、日常的に生徒の状況の把握に努め、年3回のいじめに関する調査を実施し、全教職員で情報を共有していじめのない学校づくりを進める。
- ④ノーチャイム制を実施し、自己管理能力と自律的行動力を育成する。
- ⑤保護者・家庭との連携の強化を図るために、年に2回以上の保護者会や授業公開週間を実施するとともに、学校からの連絡を密にする。
- ⑥生徒が興味をもって、主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるように生活指導の充実を図る。
- ⑦通級指導などを通じて個々の生徒の生活上の困難さの実態に応じた具体的な指導方法を創意工夫し、意欲的な活動を促し、あらゆる場面で生活指導の充実を図る。

(4) 進路指導

- ①教科による検定受検者と合格者の組織的な把握及び受検者と合格者を増やす。難関四年制大学進学者への指導強化し、現役進路決定率100%進路満足度100%を目指す。
- ②「産業社会と人間」を柱に、系列・科目選択を契機として自己の在り方や将来の生き方について認識を深める指導を充実する。
- ③スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭と年次が連携し通級指導などとおして生徒が抱える問題の早期発見と解決を図る。
- ④成績・進路に係る情報をデータベース化するとともに、個人カルテを整備し、これらを生徒の進路指導に活用する。ボランティア活動、インターンシップ、進路講演会、定期的な相談活動などとおして生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。
- ⑤個々の生徒が、自立活動における学習の意味や将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係を理解させ、希望する進路が実現するように進路指導の充実を図る。

(5) 総合的な探究の時間

- ①1年次の「産業社会と人間」で培った、自ら課題を見付け、主体的に学習し、課題を解決する能力を活かし、学習内容を深化・発展させる。
- ②「総合的な探究の時間」の本校独自の手引きを充実させる。
- ③学び方を学び、ICTを利用した調査・研究や発表の適切な方法を学ぶことで、問題の解決や探究活動に主体的かつ創造的に取り組む態度を育て、将来の自己の在り方・生き方を肯定的に考えることができるようにする。
- ④各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする。
- ⑤高大接続改革を視野に、生徒が学習をとおして興味・関心、進路等に応じて追究するべき課題を設定し、質の高い「卒業研究」としてまとめ上げる。

5 教育目標達成のための特色ある教育活動等

(1) 教育目標達成のための特色ある教育活動

- ①ライフプラン発表会や卒業研究発表会等の進路行事を充実・発展させ、3年間をとおした系統的なキャリア教育を展開する。
- ②学校設定科目「自然と農業」「自然と環境」等において生命を考える教育を推進し、農業系大学との連携を進め、食農教育改革を強化する。
- ③ドイツのカントギムナジウム校との短期交換留学、国際社会に生きる人材を育成する。
- ④★ 防災訓練をとおして、自助・公助の在り方や災害時の避難所としての在り方について学び、地域と連携し防災教育を充実させる。
- ⑤ 学校運営連絡協議会や「学校評価アンケート」の実施により、恒常的に学校経営・運営の在るべき姿を検証し続ける。